



写真3 たたら炉を解体して鋳を取り出す
(左後方は堀江村下)

入を行なう。以後詳細な記録は一切省略するが、3昼夜の連続作業を経て風を止め、片側の羽口面から炉をこわ

して鋳(けら)を取り出す。(写真3参照)3回の試験で2~2.5tの鋳塊が3個得られ、富士製鉄広畑製鉄所の御好意で破碎したのち研究委員の分担で名種の試験を行なう予定である。

4. 結 び

このようにして幸い人員の事故もなく、復元実験を終えることができたが、経理の精算は申すまでもなく事業のしめくり一同努力している。さらに本協会の特別報告書としての出版物刊行の準備も進められている。これは鉄鋼製造の技術者、学者ばかりでなく、たたら製鉄史の研究者にも御参考にならうかと思ひ、われわれ最善の努力を傾倒したいと思つている。あらためて会員諸氏のお知恵をお願いする次第である。本事業の協会幹事は技術部部員松原格氏(前任の鈴木重治部員は準備段階で大変努力されたが、現在海外留学中である)であることをご紹介したが、ご意見はここにお寄せいただきたい。(昭和44年11月14日)

書 評

高 圧 実 験 技 術 と そ の 応 用

日本材料学会高圧力部門委員会編

本書は高圧力を利用するに際しての基礎から応用に至る重要事項を広範に網羅したもので、高圧装置の設計、工作および高圧装置を使用しての研究、生産に従事する者の必携の書である。

最近の高圧力の利用は化学工学の分野のみならず、金属加工やダイヤモンドを始めとする各種の鉱物合成など極めて多岐にわたり身近なものとなつたが、同時に利用される圧力範囲もより高圧のものが要求されてきている。したがって高圧下における反応、物性の変化より、目的に応じた圧力の発生法、装置材料、機構の選択を始め、圧力の測定、制御法などに関しても幅広い知識が必要となつている。

このため、今まではそれぞれの専門書から必要事項を拾い出して補なわなければならなかつたものが、本書の出現によつて一冊で十分間に合わせることができるようになつたことは喜ばしいことである。またわずかな基本的な知識の不足から、思いがけぬ問題や事故を巻き起こすことも少なくなかつたが、本書を活用することによつて容易に防止することができるものと考えられる。

もちろん、広範な分野にわたる事項を一冊の書に取りまとめることは至難なことで、狭い専門分野の問題までをこの書によつてすべて解決しようとする場合には満足できぬであろうが、高圧力を利用する者の傍らには必要欠くべからざるものといえよう。

本書の題名が高圧実験技術とその応用となつているが、上記のような意味からして実験技術のみに止まるものでないから、書名がやや不適切であろうかと思われ、この点を惜しむものである。(阪部喜代三)

(A5判, 904 ページ, 定価 4800 円, 丸善)